

東長崎地域のローカル路線廃止のお知らせについて

東長崎地域のローカル路線のうち以下の路線について、平成26年3月31日の運行をもって廃止することといたしました。

これまでご利用いただきましたお客様に感謝を申し上げますとともに、このような状況になりました事情についてご理解賜りますようお願い申し上げます。

なお、当初廃止予定としていました、一部路線について、減便したうえで運行を継続いたします。引き続きご利用のほどよろしく申し上げます。

1. 廃止するローカル路線

廃止区間	関係する運行系統
・卸団地～築地橋	・卸団地～東望道
・潮見町～春日車庫前	・潮見町～卸団地
	・潮見町～矢上
	・潮見町～新田頭
・新田頭～鶴の尾団地～鶴の尾 ・観音入口～年の神～宮郷 ・東望道～憩の家	・新田頭～東切通
	・新田頭～東望道
	・新田頭～憩の家
	・新田頭～潮見町
・鶴の尾～鶴の尾団地～平間～観音入口	・つつじが丘～ジャスコ前
・彩が丘～普賢神社口	・彩が丘循環線
	・彩が丘～高城台南
・矢筈～中尾～番所橋	・中尾循環線
・弁天口～臼の浦	・長崎駅前～弁天口
・長崎東公園～東公園入口	・長崎駅前～東公園

2. 今後も運行するローカル路線

古賀木場～東望道（東切通）線

現川線

・現川駅前～たちばな小

・現川駅前～中央橋～長崎駅前

《東長崎地域の運賃値下げ、ローカル路線見直しの経緯》

・背景

東長崎地域は長年に亘って県営バスが単独で運行してまいりましたが、長崎バスと比べて運賃が高いことから、かねてより地元の皆様方から運賃値下げの要望をいただいております。県営バスの運賃は、全国でも大手 177 社中 15 番目の安い水準であり、また、県営バスでは職員一人あたりの平均給料月額をこの 10 年で約 2 割縮減するなどの経費削減を実施し、キロ当たりの運行コストは既に長崎バスよりも低い水準にあります。利用者は長崎バスが 1.7 倍ほど多い状況であることが運賃の格差を発生させる大きな要因となっています。さらに県営バスでは不動産の賃貸収入等、バス事業を補填する財源が極めて乏しい状況であります。

・長崎市との協議

東長崎地域の路線は市中心部を結ぶ幹線路線はお客様は多いわけですが、地域内のローカル線はお客様は少ない状況にあり、赤字を抱えながら運行してまいりました。このような状況で単に運賃の値下げをしてしまうと、大きな減収が発生し、ローカル線の運行が困難となります。そのため、県営バスとしては、路線維持と運賃値下げ双方の実現を図るため、市から赤字路線への補助（国から市に対し 8 割の補填措置あり）をいただくことで、路線を維持し、その分運賃を値下げする方法を考え、24 年 5 月から市と協議を重ねてきましたが、市の理解を得るには至りませんでした。

・長崎バスの参入

そのような中、長崎バスが 24 年 11 月、茂木～飯香の浦～矢上間に続き、25 年 4 月には長崎南高～蛍茶屋～矢上間を自社の安い運賃で運行開始しました。そのため、26 年 4 月から東長崎地域の運賃の値下げとそれに併せて市の財政負担についての理解が得られない限り、止むを得ず路線の見直しを行わざるを得ないと判断いたしました。

・廃止表明～地元への説明～市との最終協議

運賃の値下げとそれに伴う路線見直しの方針を 25 年 5 月に表明し、その後、8 月から 9 月にかけて地元への説明会や市と地元との協議などを行い、改めて「路線維持を図りたいと考えているが、そのためには市の補助が必要」との説明を行ってまいりました。その上

で、県営バスとしては市の負担の軽減を図りつつ、減便や経路変更などの代替措置により、最低限のダイヤを残す再検討案を作成しましたが、最終的に協議は整いませんでした。

・路線廃止の申し入れ・了承

県営バスとしては、東長崎地域の運賃値下げに伴い、大幅な減収（1億5600万円）が見込まれる中、最終的に長崎市からの財政負担の見込みが得られないこと、他の補填財源に乏しいこと等から路線見直しを行わざるを得ない状況となり、25年9月30日に県バス対策協議会に路線見直しの申し入れを行い、12月25日に同協議会の了承を得ました。

・最後に

県営バスにとりましても、長年に亘って運行してまいりました愛着のある路線ばかりであり、廃止路線をご利用いただいていたお客様には、大変申し訳ない気持ちでございます。これまでのご愛顧に厚く感謝申し上げますとともに、このような状況になりました事情についてご理解いただきますようお願い申し上げます。4月のダイヤ改正において、一部路線については、強化を図りました。また、廃止を申し出た路線以外のローカル線については、既存路線の利用や経路変更、利用状況を踏まえた減便等により、可能な限り利便性の確保を図ることとしております。なお、今回、つつじが丘地区について他地区のような大幅な値下げが出来ませんでした。これは、つつじが丘を通る路線は諫早方面まで運行しており、つつじが丘まで他地区と同様の引き下げを行えば、路線の維持や諫早南部地域の運賃についても影響があることを考慮する必要がありました。

県営バスは、今後も安全運行と接客サービスの向上に取り組み、お客様の信頼をいただけるよう努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。